内容

[1. 背景 1](#_Toc419461269)

[2. 課題 1](#_Toc419461270)

[3. 目的、方針 1](#_Toc419461271)

[4. 概要 2](#_Toc419461272)

[5. 機能 2](#_Toc419461273)

[6. 工程計画 2](#_Toc419461274)

[7. 成果物 3](#_Toc419461275)

# 背景

千葉工業大学で活動している複数の部活動(団体と称す)の会計職は，決算報告に必要なデータを一人で手入力をしているため，時間がかかっている．

仕事の内容は，年度の始まりに昨年度の決算報告書を作成し，運動部であれば体育会に，文化部であれば文化会に提出する．その際に，膨大な量のレシートや領収書に記入してある日付，購入物，金額と購入物の部類分けし，エクセルに一人で入力すること．また，使用した金額分を購入者に返金する必要があるが，誰がいくら使ったかの詳細が不明となり，きちんと返金できない場合もある．団体で領収書の管理方法が違うため，決算報告書の作成期間が異なってくる．そのため，提出期限に間に合わなくなり，学校からの交付金を貰うことができなくなる．他にも決算報告書を管理する体育会と文化会(組織と称す)は仕事を延長することになる．よって，提出期限の遅れは互いに好ましくない．以上のことから現在のやり方では仕事の効率が悪いことに注目した．

上記の問題を解決するために，登録したユーザが各自で購入時に領収書の内容を登録し，組織と団体が一括で管理できるwebアプリを提案する．

# 課題

現在、明らかになっている課題は以下の通りである

1. 一人で膨大なレシートのデータを手入力すること
2. 購入者の使用金額が完璧に把握できてない
3. 複数の団体で管理方法が異なり，互いにデメリットが生じる

# 目的、方針

以上の課題を要求とし，以下のように示す．

1. 分担入力
2. 本人入力
3. 団体管理

# 概要

本システムは，決算報告時に領収書の内容を会計職が一人で手入力するのではなく，webアプリを経由して複数のユーザ(購入者)から登録できるようにするものである．また，管理方法を統一することでスムーズに決算報告書を作成し，早期に仕事が終了する．そのシステムの内容は，データベースへの購入日，購入物，金額，部類の登録．そして，ユーザの使用金額の算出及び確認，支出金額の総額算出である．

対象は，千葉工業大学の団体とする．

# 機能

要求に対する必要な機能を以下の表1に示す．

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 表1 | | | |
| 機能  要求 | Webベースデータベースアクセス | 本人登録 | 団体登録 |
| 分担入力 | ○ |  |  |
| 本人入力 |  | ○ |  |
| 団体管理 |  |  | ○ |

# 工程計画

仕様決定 2015年5月8日

外部設計完了 2015年5月29日

内部設計完了 2015年6月19日

開発完了日 2015年7月3日

納品日 2015年7月10日

プロジェクト終了日 2015年7月24日

# 成果物

1. プロジェクト憲章
2. 要件定義書
3. ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャ
4. プロジェクト計画書
5. コスト見積書(概算)
6. 仮契約書
7. 外部設計書
8. テスト計画書
9. 中間発表資料
10. 引き渡し書
11. プロジェクト計画書(見直し)
12. コスト見積書(正式)
13. 本契約書
14. 内部設計書
15. プログラム
16. テスト報告書
17. 納品書
18. マニュアル
19. クオリティ・コスト・デリバリー評価報告書
20. マネジメントレポート
21. 最終発表資料
22. 議事録
23. 作業日報